

平成31年4月15日

## 平成30年度学校関係者評価委員会報告書

学校法人常松学園札幌工科専門学校  
学校関係者評価委員会

### 議題

- ・平成30年度 学校の取り組み状況と自己評価
- ・平成30年度 学校自己評価結果による課題と対策

1. 開催日時 平成31年3月16日(土) 10:00～11:50

2. 場 所 札幌工科専門学校 第2校舎 会議室

3. 出席委員

常松 哲	理事長
前田 寛之	一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問(業界関係者)
奥内 尚史	一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
下原 英一	(株)イーエス総合研究所 常務執行役員業務企画部長(企業等委員)
三上 敬司	校長
大坂 道明	教頭
阿部 峰雄	環境土木工学科長
岩瀬 聡	造園緑地科長

欠席委員

小林 勝美	緑化デザイン(株) 代表取締役社長(企業等委員)
古城 学	常松学園札幌工科専門学校同窓会長
伊藤 幸一	事務局次長
中田 亜弓	モエレ町内会員

## 平成30年度 学校の取り組み状況と自己評価

### I 教育理念・目標

#### 学校の取り組み状況

建学の精神を基に学校教育目標が示されている。この教育目標が持つ理念を入学後のガイダンスにて学生に確実に伝え、その後も適時繰り返すことで浸透させている。

#### 自己評価

理事長が示された教育理念を遵守継承しながらも、多様化する入学生に対し高い満足感を与えられる教育実践が求められる。そのために本校が目指す教育方針を明確にし、全職員共通理解の基に入学生へ伝える必要があると考える。しかし、現状では各教員間によりその解釈に温度差が見られ、指導にも差があるように感じられる。

#### 評価委員の意見

- ・教員間で教育理念の解釈に温度差が見られるとあるが、なぜそのようなことが起きるのか。  
⇒朝の打ち合わせ等を行い、意思の疎通を深めるよう努めているが、学科や年齢、キャリア等の異なる教職員集団なので完全な統一は難しい。そこで、次年度から組織体制を改め、より統一した教育理念の解釈による、教育実践を目指すことにした。

### II 学校運営

#### 学校の取り組み状況

校長が、時流や職員の意向を鑑み、さらに理事長や理事の指導を受けながら学校経営を行っている。この経営方針を受け、より良い学校運営がなされるよう、次年度は学科長と担当者が中心となり組織の枠に捉われない校務の推進を行っている。

#### 自己評価

業界や地域社会等に対するコンプライアンス（法令順守）、情報公開については平均以上の評価となっている。しかし、学校運営における協働体制、学校行事計画の円滑な進行はD評価となり、大きな課題となっている。次年度は教頭職を廃止し3名の学科長を中心とした体制に変更することで、この課題を解決すべく組織体制を変更する。

#### 評価委員の意見

- ・勤務時間外の業務が日常化しているとあるが、その実態を教えてほしい。また、「サービス残業」と表現した教員が居たが、教育現場でその表現は相応しくない。  
⇒多い先生は週20コマ前後の授業を持つ、更に資格試験に向けた補習や進路指導。造園緑地科では休日のハウス管理等、多岐に及んでいる。

### Ⅲ 教育活動

#### 学校の取り組み状況

旧教育課程では毎日 5 校時まで授業が行われていたため、放課後の指導は難しかったが、新教育課程が定着し、資格取得における補講や理解の浅い学生に対する指導など、放課後を活用した教育実践が見られた。一方で少子化と入学生の多様化等に対応するために、より良い教育課程の編成を検討する計画もあげられている。しかし、理想とする教育計画を実現するためには、少ない教職員をどのように活用していくか等、今後の検討課題も少なくない。

#### 自己評価

項目ごとにばらつきのある結果となった。年間指導計画では、今回の集計で最も高い評価を得、多くの教員が年間指導計画に添った授業展開を実践したことが伺われる。また、学校行事では、今年度は地震の影響により学園祭が中止になったが、地域の方向けに感謝祭を行い、高評価を得た。一方、早急な改善が求められる件として、シラバスにおいて教科により記載される書式に差が見られる。学生による授業評価では適正な意見を汲み上げられていない、などが挙げられている。さらに、校内での窃盗事件の発生に関連し、学生へのモラル指導の強化、貴重品の自己管理の徹底を呼び掛けている。また、校舎内の死角へのカメラの設置を予定している。

#### 評価委員の意見

- ・今年度は校内において窃盗事件が発生したため、再犯を防止するためにカメラの設置も、その対策のひとつと考えるが、学生が持つ個人情報の保護に関して十分留意願いたい。
- ・学生による授業評価では適正な意見を汲み上げられていないとあるが何故か。  
⇒授業評価は年度末に一括して行うため、評価する教科が多くなる。そのため丁寧な評価を行う学生が少ないのが現状。次年度は前後期に分け、評価項目も整理し授業評価を行う予定である。

### Ⅳ 学修成果

#### 学校の取り組み状況

学習成果については、在学中の資格取得率の向上と、より良い進路の達成が大きな柱となり、専門学校として本校が受ける評価もこの学習成果が重要な要素となる。そのため学科長を中心に複数の教員で、達成度の向上を目指し取り組んでいる。

#### 自己評価

今年度の資格取得状況については概ね良好な成果を得た。一方進路においては、公務員を希望する学生がやや少なかった。これについては様々な原因が考えられるが、今後は進路意識の改善から進めていく方針である。現在、公務員試験の難易度は下がっている傾向にあるが、今後難易度が上がった時にも対応しうる教育水準の確保が求められる。また、例年問題となっているマナー指導であるが、日々の挨拶の徹底など、確実に継続的な指導を日常業務として実践する必要がある。

今年度の退学者について、退学 4 名、休学 2 名となった。その特徴として、過去に心的障害を抱えた学生が多いことがあげられる。今後学校として、特別支援に関する講習会等を行い、傾向と対策に関するノウハウを蓄積する予定である。

### 評価委員の意見

- ・公務員の受験指導について、現在、成り手が少ない状況にあるものの、可否に係る総合的基準は変わらないようである。本校では、公務員試験合格のみに特化した授業ではなく、実習等を通じた技術の修得を主に指導しているため、官庁での評判は良いものの、十分な力を付けぬまま卒業した一部の学生の中には、入庁後に体調を崩したり、退職を余儀なくされる卒業生もいる。公務員とは住民と、その地域の発展のために奉仕する尊い仕事であることを在学中にしっかりと指導してほしい。
- ・マナー指導について、学内で日常的な指導を行っても、その場限りという場合が少なくない。周囲の状況を見て自ら改善していく心を育てることが重要。一例として技能五輪等の大会へ出場させるなど、実体験により変容させることが効果的である。

## V 学生支援

### 学校の取り組み状況

学生支援では、学生が安心して学習する場を提供し、日常生活や将来に関する不安を取り除くための支援、更には経済的支援や保護者への相談体制の整備等多岐に及ぶ。ただし、現状ではニーズが少ないため、その場に応じて該当の担当者が随時対応するに止まっている。

#### 自己評価

学生指導における基本事項は高い評価となっている。改善点として、学生の安全管理において、実習中に怪我をした学生がおり、緊急時に病院への搬送手段や搬送病院の指定が求められる。また、就職支援体制では、就職指導を行った情報や履歴を学校として共有活用する手段に改善の余地がある。更に、課外活動や学生への生活指導において低い評価ではあるが、本校の教員数や授業時数を考慮すると、高評価を得ることは難しい内容であると思われる。

### 評価委員の意見

- ・学生の安全管理について、十分な事前指導を行っていると思うが、環境土木科では20名の学生に対し指導教員が2名、造園緑地科ではチェーンソーを使用するため、学生が10名以上になると現状の指導体制では安全管理の徹底は厳しいようだ。実習安全管理マニュアルに従い、自分と仲間を守る指導を徹底してほしい。
- ・課外活動について、本校では部活動は行っていないが、造園緑地科では技能五輪への出場に向けた取り組み等、学生のニーズに応じた取り組みがなされている。今後は学校として地域のボランティア活動への参加を促すなど、積極的な活動を望む。

## VI 教育環境

### 学校の取り組み状況

より良い教育を支援するために、教材や実験・実習設備、更に情報関連器機等の環境を整備している。そのために中長期的な視点に立ち、計画的な設備の更新を行うようにしている。しかし、学生数の増加に対する実験室等の施設整備が今後問題化してくると思われる。

### 自己評価

まず、この自己評価において最も低い評価となった項目が防災に対する体制整備である。今年度は地震による停電、休校等と災害に見舞われたため不備が露呈した面があることから、速やかな改善が求められる。現在、防災マニュアルを今年度中に発行し、これに添った訓練も実施する予定である。また校舎内外の施設設備の維持管理において、本校では造園実習地や温室を有しているが、その環境整備も教員が行っている。教員がより質の高い授業を行うための人材整備をお願いしたいとの意見があげられた。

### 評価委員の意見

- ・ 質の高い授業を行うための人材整備とあるが、現状では学校経営上難しい。教員数を増やすのも良いが、日々の仕事の内容を見直すことも一案である。教員の協力体制の基、乗り越えてほしい。

## VII 学生の受け入れ募集

### 学校の取り組み状況

本校の入学者選抜試験では数学、作文、面接を課し、これを総合的に判断し可否を決めている。平成31年度（3月1日現在）は69名の出願者の中から6名の不合格者を出した。時代に即した学生募集という点では、多くの専門学校は受験者全入が一般的になっているが、技術者育成教育に耐えうる学生を求めるといふ、本校の理念を貫くために現在の入試選抜を行っている。

### 自己評価

昨年は全ての項目でA評価としたが、今年度は全てC評価となり、特に広報活動では防災体制に次ぐ大きな下げ評価となった。昨年の自己評価において「今後の高校卒業生数の減少も含め真剣に考えていく時期が来ている。」とあったが、それが成されなかったことが評価を下げたものとする。

大学への進学率が上がる中、専門学校への進学希望者が減少することが明らかであり、本校の強みである公務員合格率、資格取得率の高さなど、今後大学にはない価値観をPRする必要がある。次年度は教育課程を含め改善していきたい。

### 評価委員の意見

- ・ 造園緑地科では、多くの科目を揃え多彩な実習に取り組むことにより、業界からも高い評価を得ている。しかし、今年度の卒業生は6名と少ない。入学生の増加のためには学校の取り組みだけでは難しいと思われる。造園協会でも市や商工会等と連携し造園業を担う若者を募っているが、これも決定的打開策には至っていない。難しい課題ではあるが、今後も連携した取り組みを継続したい。
- ・ 少子化の影響により、大学でも学科の統廃合が進んでいるが、例えば環境土木工学科と造園緑地科を統合し、コースに分けた中で指導するといった考え方も一つの対策である。  
⇒環境土木科長：現在の学生は、公務員、民間そして企業委託生と進路目標が様々である。企業委託生に公務員指導を行っても浸透しにくいとため、公務員希望者を分けてコース設定し、指導することが可能であれば検討の余地はある。

## VIII 財務

### 自己評価

一般職員が評価することは難しいとの意見が多かった。

### 評価委員の意見

- ・特記事項なし

## IX 法令等の遵守

### 学校の取り組み状況

法令については、専修学校設置基準を遵守しこれに添った学校運営を行なっている。更に、より厳しい基準である職業教育実践課程で求められている学校評価の情報もHPで公開している。

### 自己評価

個人情報の保護対策に厳しい意見もあるが、概ね良好と評価する。

### 評価委員の意見

- ・特記事項なし

## X その他

### 評価委員の意見

- ・欠席委員が多い。多くの委員が参加できる日程の調整を望む。特に、地域からの信頼を大切にす  
る本校であるため、町内会員の委員の参加は大切であると考え。また、(株)イーエス総合研究所  
の社長には、今後も学校の理事として本校に従事してほしい。